

9. 分詞構文

1.

次の日本語に合う英語になるように()内の語を並べかえなさい。

(1) バスを見ると、彼はバス停へ走った。

(, / to / the / ran / . / stop / seeing / bus /
the / bus / he)

(2) 疲れていたなので、彼女は早く寝た。

(tired / to / . / she / early / being / bed /
went / ,)

(3) トムは歌を歌いながら部屋から出て行った。

(out / singing / went / room / song / , / of / . /
Tom / the / a)

(4) 昼食を食べていないので、彼は空腹だった。

(he / eating / , / lunch / . / was / not / hungry)

[解答]

- (1) Seeing the bus, he ran to the bus stop.
- (2) Being tired, she went to bed early.
- (3) Tom went out of the room, singing a song.
- (4) Not eating lunch, he was hungry.

Note

9. 分詞構文

1. 分詞構文の用法

- (1) バスを見ると、彼はバス停へ走った。

Seeing the bus, he ran to the bus stop.

分詞構文(時)

「~したとき、~するとすぐに」

「バス停」

分詞構文とは、副詞的に用いられ、文に状況や理由などの情報を加える分詞のことですが、次のような英文になります。

- ① Walking along the street, I met an old friend.
(通りに沿って歩いていると、昔の友人に私は出会った。)
- ② Persuaded by my advisor, I attended the coference.
(指導教官に説得されて、私はその会議に出席した。)

③ My sister, seeing me in the crowd, waved at me.

(私の姉は、人込みの中に私を見て手を振った)。

そして、分詞構文の意味上の主語や位置などについては次のようになります。

- ① 分詞構文の意味上の主語＝主節の主語
- ② 現在分詞…主語と能動関係
過去分詞…主語と受動関係 (being が省略されたもの)
- ③ 位置…厳密なルールはなく比較的自由だが、おおむね次のようになる。
 - (a) 主節の後…分詞構文の動作が主節の動作より後か同時。
 - (b) 主節の前…分詞構文の動作が主節の動作よりやや前か、主節の部分が長くなる場合。
 - (c) 文の途中…主語の直後に置かれ、主語について説明。

前の例文①～③では、それぞれの分詞の意味上の主語は、主節の主語と同じです。つまり、①では **walking**「歩いている」のは主節の主語の I「私」、②では **persuaded**「説得された」のは主節の主語の I「私」、③では **seeing**「見て」いたのは主節の主語の **My sister**「私の姉」であることを示しています。

こうした分詞構文が表す内容は次のようになります。

[分詞構文が表す内容]

- ① 動作の同時「～しながら」(付帯状況) 後に置くことが多い。
- ② 動作の連続「…して(そして)～」前の動作なら前、後の動作なら後に置く。
- ③ とき「～するとき」「～している間」 文頭がふつう。
- ④ 理由「～なので」 文頭が多い。
Being ～の分詞構文はふつう理由を表す。
- ⑤ 条件「もし～ならば」 慣用表現以外は少ない。
- ⑥ 譲歩「～だけれども」「～だとしても」
ほとんど慣用表現のみ。

- ① I was lying in bed, watching TV.
(テレビを見ながら、私はベッドに横たわっていた。)
- ② Opening the box, he put the paper in it.
(箱を開けて、そして彼はその紙を中に入れた。)
He opened the box, putting the paper in it.
- ③ Seeing the police officer, he ran away.
(警官を見ると、彼は走り去った。)
- ④ (Being) written in simple English, this book was easy to read.
(簡単な英語で書かれてあったので、この本は読みやすかった。)
- ⑤ Compared to her sister, she is more artistic.
(姉と比べると、彼女の方が芸術的だ。)
- ⑥ Admitting what you say is true, I still can't believe the story.
(君の言うことが本当だとしても、私はまだ話を信用できない。)

どの意味になるかは前後の文脈から考える必要があります。

分詞構文の意味…前後の文脈から判断。

また、意味を明確にするため、「条件」のときは分詞の前に if を、「譲歩」のときは while を置いていることもあります。

(1)の問題では「バスを見ると…」となっていますので、分詞構文を使って、Seeing the bus としましょう。

Note

(2) 疲れていたのので、彼女は早く寝た。

Being tired, / she / went to bed / early.

分詞構文(理由)
「～なので」

「早く」

(2)の問題では、「疲れていたのので…」となっていますので、分詞構文を使って、**Being tired**としましょう。

Note

(3) トムは歌を歌いながら部屋から出て行った。

Tom / went / out of the room, / singing a song.

「～から出て行った」
go out of ～ 「～から出て行く」
out of ～ 「～の外へ、～から」

分詞構文(付帯状況)
「～しながら」

(3)の問題では「…歌を歌いながら…」ですので、**singing a song** を文末に置いてください。

Note

(4) 昼食を食べていないので、彼は空腹だった。

Not eating lunch, he was hungry.

否定形の分詞構文
not[never]+分詞

「空腹な」

こうした分詞構文が表す内容を否定するには、次のような形を取ります。

否定の分詞構文…否定語 (not, never) を分詞の直前におく。

Not seeing a small stone, I fell over it.

(小さな石が見えなかったなので、私はそれにつまずいて転んだ。)

(4)の問題では、「昼食を食べていないので、…」となっていますので、否定の分詞構文を使って、Not eating lunch の語順を作りましょう。

さらに加えて、この後に出てくる完了形の分詞構文を否定形ににする場合は、次のようになります。

完了形の分詞構文の否定… 〈not having+過去分詞〉
never を使うとき 〈never having+過去分詞〉 または
〈having never+過去分詞〉

never が having の前でも後でもよいことに注意してください。

Having never been there, she had no idea where to go first.

Never having been there, she had no idea where to go first.

(そこへは行ったことがなかったので、彼女はまずどこへ行けばいいか全くわからなかった。)

次の日本語に合う英語になるように()内の語を並べかえなさい。

(5) 宿題を終えてしまったので、彼女はテレビを見た。

(her / finished / watched / she / homework /
having / TV / . / ,)

(6) 平易な英語で書かれているので、その手紙は読みやすい。

(English / in / letter / plain / easy / written /
the / read / , / is / . / to)

[解答]

- (5) Having finished her homework,
she watched TV.
- (6) Written in plain English,
the letter is easy to read.

Note

(5) 宿題を終わってしまったので、彼女はテレビを見た。

Having finished her homework,

↑
完了形の分詞構文 having+分詞

she watched TV.

↑
「テレビを見た」

分詞構文で主節よりも前のことを表すときは、不定詞や動名詞と同じく完了形の分詞構文を使うことになります。

完了形の分詞構文… 〈having+過去分詞〉

主節よりも前のことを表す。

Having visited the park before, he got there easily.

(以前その公園へは行ったことがあるので、彼は簡単に到着した。)

ただし、分詞構文が主節より前にあるとき、特に前の動作の完了を強調したり意味があいまいになったりするのでなければ、完了形にする必要はありません。

Opening the bottle, he poured the wine into my glass.

(ボトルを開けて、彼は私のグラスにワインをついだ。)

(5)の問題では「宿題を終えてしまったので…」となっていますので、完了形の分詞構文を使って、**Having finished her homework** とすることになります。

Note

(6) 平易な英語で書かれているので、その手紙は読みやすい。

Written in plain English,

↑
受動態の分詞構文
being + 過去分詞
(being はふつう省略される)

↑
「平易な英語で」

the letter is easy to read.

↑
「読みやすい」
be easy to ~ 「～しやすい」

受け身の動作や状態を表す分詞構文は、次のようになります。

受動態の分詞構文… 〈being＋過去分詞〉

- ① Being used economically, one bottle will last for six weeks.
(節約して使われれば、1 ビンで 6 週間は持つでしょう。)

なお、完了形の受動態の分詞構文は次のような形になります。

完了形の受動態の分詞構文… 〈having been＋過去分詞〉

- ② Having been brought up in Brazil, he is good at soccer.
(ブラジルで育ったので、彼はサッカーが得意だ。)

また、これら分詞構文の **being** や **having been** は省略することができます。特に文頭に来的时候は省略されるのがふつうです。

分詞構文の **being** や **having been**…省略可能。

ですので、①や②の例文は次のようになります。

- ① Used economically, one bottle will last for six weeks.
(節約して使われれば、1 ビンで 6 週間は持つでしょう。)
- ② Brought up in Brazil, he is good at soccer.
(ブラジルで育ったので、彼はサッカーが得意だ。)

2.

次の日本語に合う英語になるように()内の語を並べかえなさい。

(1) とても暑かったので、彼は外出しなかった。

(hot / out / being / go / , / did / it / . / he /
not / very)

(2) サッカーの試合が始まると、雨が降り始めた。

(game / , / to / soccer / . / it / starting / the /
rain / began)

(3) 家には食べ物がなかったので、彼女は買い物に行かなければならなかった。

(being / house / , / in / had / there / go / no /
the / shopping / she / food / . / to)

[解答]

- (1) It being very hot, he did not go out.
- (2) The soccer game starting, it began to rain.
- (3) There being no food in the house,
she had to go shopping.

Note

2. 独立分詞構文

(1) とても暑かったので、彼は外出しなかった。

It / being very hot, / he / did not / go out.

↑
意味上の
主語

↑
独立分詞構文
主節の主語と異なるので、
分詞の前に意味上の主語を置く。

↑
「外出する」

さて、分詞構文の意味上の主語は基本的には主節の主語と同じということでしたが、例外的に次のようなものがあります。

独立分詞構文…意味上の主語が主節と異なるので例外的に分詞の前に明示したもの。極めて文語的表現。

It raining today, she decided to stay home.

(雨が降っていたので、彼女は家にいることに決めた。)

上の例文では、**raining**「雨が降る」の主語は主節の主語 **she** ではありませんので、天候を表すときの主語 **it** を分詞の前に置かなければなりません。これが「独立分詞構文」というものです。

(1)の問題では、「とても暑かったので…」は、この独立分詞構文を使って、**It being very hot** の語順を使うことになります。

Note

(2) サッカーの試合が始まると、雨が降り始めた。

The soccer game starting, it began to rain.

意味上の
主語

独立分詞構文
主節の主語と異なるので、
分詞の前に意味上の主語を置く。

begin to ~
「～し始める」

この(2)の問題も、「サッカーの試合が始まると…」の部分を独立分詞構文を使って **The soccer game starting** とすることになります。

こうした独立分詞構文は、極めて文語的な表現なのでくだけた言い方は今はまず使われませんが、次の例文のような、主語の一部を示す語句が分詞の意味上の主語の場合には、比較的よく使われます。

She ran up to him, her hair flying in the wind.

(彼女は髪を風になびかせながら、彼のところまで走ってきた。)

Note

(3) 家には食べ物がなかったので、彼女は買い物に行かなければならなかった。

There being no food in the house,

↑

意味上の主語

there is 構文では
there を置く。

↑

独立分詞構文

主節の主語と異なるので、
分詞の前に意味上の主語を置く。

she had to go shopping.

↑

had to ~

「～しなければならなかった」

↑

go shopping

「買い物に行く」

there is 構文の場合には次のように注意が必要です。

there is 構文の場合… there をそのまま残して **There being** ~

There being no food in the house, we decided to go shopping.

(その家には食べ物がなかったので、買い物に行くことに決めた。)

つまり、**there** が主語のように扱われるということです。

(3)の問題では「…食べ物がなかったので…」となっていますから、**there** を主語のように扱って、**There being no food** の表現を用いましょう。

3.

次の日本文に合う英語になるように()内の語を並べかえなさい。

(1) 率直に言って、彼は休みが取りたかった。

(, / speaking / to / . / rest / he / take /
frankly / wanted / a)

(2) 天候が許せば、船は明日出ます。

(tomorrow / ship / , / permitting / . / the /
weather / leaves)

(3) 未経験であるとするると彼はよくやった。

(that / , / inexperienced / has / he / . / given /
done / is / he / well)

(4) その女性は目を閉じたまま座っていた。

(with / woman / closed / . / eyes / sat / the /
her)

[解答]

- (1) Frankly speaking, he wanted to take a rest.
- (2) The ship leaves tomorrow,
weather permitting.
- (3) Given that he is inexperienced,
he has done well.
- (4) The woman sat with her eyes closed.

Note

3. 分詞構文の慣用表現など

- (1) 率直に言って、彼は休みが取りたかった。

Frankly speaking, he wanted to take a rest.

「率直に言って」

want to ~
「～したい」

「休みを取る」

主節の主語と分詞構文の意味上の主語が違っていても、慣用的に用いられているために主語を省略している表現があります。そのような分詞構文の主な慣用表現をまとめると、次のようになります。

〔分詞構文の主な慣用表現〕

| | |
|-----------------------------|-------------|
| frankly speaking | (率直に言うとき) |
| strictly speaking | (厳密に言うとき) |
| roughly speaking | (大まかに言うとき) |
| honestly speaking | (正直に言うとき) |
| speaking of ~ | (～と言えば) |
| talking of ~ | (～と言えば) |
| judging from[by] ~ | (～から判断すれば) |
| considering ~ | (～を考慮すると) |
| taking ~ into consideration | (～を考慮すると) |
| given that ~ | (～であるとするとき) |
| supposing (that) ~ | (もし～なら) |
| provided (that) ~ | (もし～なら) |
| providing (that) ~ | (もし～なら) |
| weather permitting | (天気が許せば) |

(1)の問題は「率直に言って…」なので、frankly speaking を文頭に置いて文を作ってください。

Note

(2) 天候が許せば、船は明日出ます。

The ship leaves tomorrow,

「出発する」

weather permitting.

「天候が許せば」

(2)の問題は「天候が許せば…」なので、**weather permitting** の表現を使いましょう。

Note

(3) 未経験であるとするとは彼はよくやった。

Given that he is inexperienced,

「～であるとする」と

「未経験で」

he has done well.

「よくやった」
do well 「うまくやる」の完了形

(3)の問題は「…であるとする」と…」なので、**given that** ～の慣用表現を使って英文を作りましょう。

Note

(4) その女性は目を閉じたまま座っていた。

The woman sat with her eyes closed.

sit 「座る」
の過去形

「目を閉じたまま」
with A+分詞など
「Aを～したままで」

「～したままで」などの意味になる付帯状況を表す独立分詞構文は、withをつけた形になることが多く、おおむね次のようになります。

付帯状況の 〈with+(代)名詞+分詞〉

「(代)名詞が～して [～されたままで]」

He talked about his daughter with his eyes shining.

(彼は自分の娘のことを目を輝かせて話した。)

She always sits on a chair with her legs crossed.

(彼女はいつも足を組んでイスに座る。)

現在分詞なら「…が～している状態で」、過去分詞なら「…が～されている状態で」となるのは今までと同じ考え方です。

この表現は主節に状況説明を加えるのが主ですが、文脈によっては「理由」や「条件」になる場合もあります。

With night coming on, he closed his shop.

(夜が近づいたので、彼は店を閉めました。)

ちなみに、こうした〈付帯状況の with〉の表現では、分詞の代わりに次のような形もありますので、覚えておきましょう。

- ① 〈with+(代)名詞+形容詞〉
- ② 〈with+(代)名詞+副詞〉
- ③ 〈with+(代)名詞+前置詞句〉

- ① with my eyes open (目を開けたままで)
名詞 形容詞
- ② with the TV on (テレビをつけたままで)
名詞 副詞
- ③ with his hands in his pockets (手をポケットに入れたままで)
名詞 前置詞句

(4)の問題では「…目を閉じたまま…」となっていますので、with her eyes closed としましょう。

